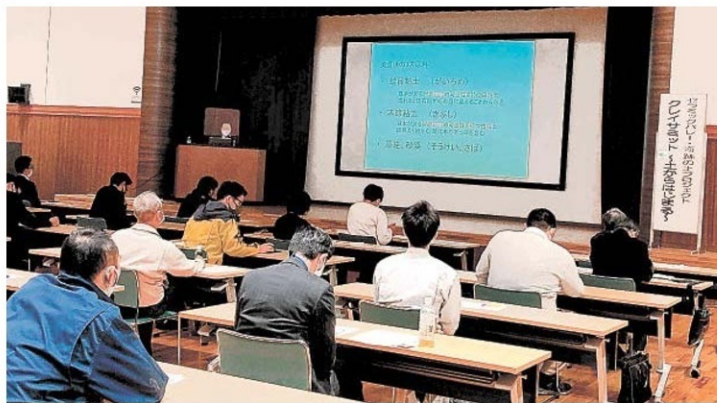


美濃焼産地 活性化探る

多治見市 窯業関係者らがセミナー

「クレイサミット」土からはじまる」セミナーが、多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールで開かれ

た。オンラインを含めて窯業関係者ら140人が参加し、美濃焼産地の将来を考えた。



土に着目し美濃焼産地の将来像を考えたセミナー
＝多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール

東濃信用金庫が業界の若手経営者と昨年2月に立ち上げた「セラミックバレー検討会」が主催。分業体制のためまとめることが難しかった美濃焼産地で、セラミックバレーを旗印として多くの人が参加できる活性化策を探っており、今回は初めて外部に向けた催しを開いた。

検討会メンバーの陶磁器商社「井沢コーポレーション」(同市)の井沢秀哉社長と、窯業原料製造販売のマルイクレイアンドセラミックス(同)の伊藤真一郎社長が講演した。

良質な土を育てた歴史を振り返りながら、地域のブランド戦略に必要なストーリーづくりや情報発信、組織の在り方について話した。ふるさと納税で美濃焼と食べ物を組み合わせて差別化するアピールや、統一の美濃焼祭りの開催、民泊や窯泊といった取り組みも提案された。(箕浦由美子)